

令和4年度の学校評価【評価結果】

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>① 将来の目標をもたせて生徒の能力を最大限に伸ばすとともに、自律の精神を培って望ましい社会性を養う。 ② 多様な生徒へのきめ細やかな対応を組織的に行い、PTA、同窓会及び地域との連携により「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。 ③ 組織及び個人の両面におけるコンプライアンスを徹底し、不祥事防止に努める。 ④ 円滑な教育活動が推進できるよう、業務の見直しや校務の情報化等を一層進め、時間外在校等時間の縮減に努める。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>総務</p>	<p>① 広報活動の充実 ② 防災意識の向上 ③ 保護者との協力体制の充実</p>	<p>・HP掲載の充実 ・防災教育の充実 ・PTAの情報交換を密にする</p>	<p>・各分掌・部活動等のご協力により例年よりもホームページの更新は増えた。「きずなネット」を活用した欠席連絡も保護者には好評のようである。ホームページ内容のさらなる充実、担当者の負担軽減のため来年度からの外部委託に向けて動き出した。 ・防災避難訓練に加えて、防災メールを用いた大規模災害時の被災状況等集約訓練を行うことができた。ただ防災意識向上にはさらなる取組が必要である。 ・ここ数年中止することの多かったPTA関連の行事をほぼすべて行うことができ、PTA理事の方々の声を聞く機会を確保することができた。一方で一部の意見にとどまっていることも事実なので、より広く意見を集約する仕組みを検討していきたい。</p>
<p>学習指導</p>	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」を目指す65分授業の充実 ② 個々の生徒に応じた学習指導の確立 ③ 観点別評価の充実</p>	<p>・個々の教員が教科指導力を向上させつつ、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を図る ・多様化する生徒に対応しつつ、生徒が主体的に学習する姿勢を育てる ・観点別評価を実践するとともに、必要に応じて改善を図る</p>	<p>・指導方法等についての日常的な意見交換が盛んであり、授業の充実に向けた個々の教員の努力が継続された。今年度も「授業参観週間」を設定し、期間中に中堅教諭等資質向上研修での研究授業の実施を依頼して一層の活性化を図った。授業感想アンケートについては、デジタル化により簡便な方法とし、各教員が生徒の意見も踏まえつつ授業改善に努めたが、アンケートの実施状況には偏りもあった。 ・1人1台のタブレットPCやそのアプリケーションの活用などにより、個々の生徒の多様な状況の把握と指導が容易になった面があるが、活用状況には教員間の差が大きかった。活用方法の共有を、日常の意見交換や研修の実施などで進めたい。 ・観点別評価の本格的な実施の初年度であったため、評価規準及び評価基準の設定には課題があった科目もあり、成績会議等において評価の状況等を共有して改善をしながらの実施となった。次年度に向けて、一層、生徒の学習改善と教員の指導改善につながるものとした。</p>
<p>進路指導</p>	<p>① 進路実現に必要な学力の養成 ② 個々の生徒に対応した進路指導体制の確立 ③ 進路に関する情報提供の充実</p>	<p>・実力考査の実施 ・補習・土曜講座の充実 ・進路アンケートをもとにした面談 ・入試情報交換会・進路検討会の充実 ・各種説明会の実施</p>	<p>・実力考査の目的を教員・生徒の間で共有する必要がある。また、補習・土曜講座については、教員の負担を考慮しつつ、効果が上がる方法を考えていく。 ・実力考査ごとの進路アンケートを通して、進路目標や家庭学習の時間を把握できた。進路検討会・学年進路検討会(ミニ検)等を通して生徒の情報を共有し、学校としての指導の統一を図ることができた。 ・卒業生による各種説明会(難関大説明会、社会人講演会)や、東大見学会を実施して、進路選択・能力伸長の一助とすることができた。2025年度入試改革(共通テストに教科「情報」が加わるなど)に向けて引き続き準備する必要がある。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導	<p>① 基本的な生活習慣の確立</p> <p>② 安全確保の推進</p> <p>③ 規範意識の醸成</p> <p>④ いじめ防止対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻、早退の理由を把握し、適切な指導を行う 生徒の安全を考え、組織的に対応する 生徒に交通安全に対する意識を高めさせる 予防的な交通安全活動に取り組む マナー、モラルの意識を高めさせる あいさつを励行 高校生らしい身だしなみを日常的に意識させる。 いじめの未然防止に係る取組を行う いじめの早期発見、適切な対応につながる方策をとる 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者に対し、その理由・回数に応じた指導を行ったが、遅刻指数は大幅に増加した。今後も必要に応じて粘り強く指導していく必要がある。 安全に係わる事案（不審者情報など）を生徒指導部一担任一生徒の流れで周知できた。今後はより早く情報提供するために、必要に応じてきずなネットでの配信も考えていきたい。 朝の立ち番では交通安全及びゆとりある登校を促した。 交通安全・防犯 LT および薬物乱用防止 LT を利用し、それぞれについて考えさせた。今後もさまざまな方法で生徒に啓発していきたい。 始業式や終業式などの諸注意では、マナーやモラル、あいさつ、身だしなみなどについて触れ、生徒自ら考えるよう促した。しかし、外部からの御意見もあり、今後も継続的にマナー、モラルについて意識させる必要がある。 アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、いじめの抑止とした。 状況によっては、関係の教員で情報を共有し、必要に応じて対応できる状況である。 人権 LT では、グループワークを通して、他者との SNS の受け取り方の違いについて考えさせ、ネットトラブルの未然防止について考えさせることができた。
学校保健	<p>① 美化活動の充実</p> <p>② 環境問題への取り組みの充実</p> <p>③ 保健・安全教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通常清掃・特別清掃の充実 ゴミの分別、古紙回収を徹底 心身の健康や安全指導の充実 生徒保健委員会活動の充実 安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の充実を図るため、通常清掃を火、水、金曜日とした。また、特別清掃により学校の外周など、普段できない場所の清掃を集中して行うことができた。部活の協力を得て、スノコ、側溝清掃も実施した。 ゴミの分別を学校全体で取り組んだ。終業式の大掃除では古紙、粗大ゴミの回収を行った。 検診では内科医・歯科医が複数になったことで検診時間を短縮できた。 健康観察表の記入が定着したことで、欠席・遅刻の全体把握や感染症の早期把握ができた。 学校保健委員会は全定別々の開催により健康課題について協議することができ、時間的にも問題はなかった。 コロナの影響もあり、教育相談が必要な生徒が増加傾向にある。ケース会議を行ったことで、少数の職員で集まりやすく詳細な把握とより具体的な対応につながった。 今年度より、いじめ特別支援教育相談協議会の構成メンバーや内容を変更し、SCも参加して対応策を検討した。 生徒保健委員会では保健便りや、ポスター、放送を使っでの感染症予防の啓発がしっかりできた。引き続き換気、昼食時の黙食、マスク着用を徹底していきたい。 環境衛生検査では7月のプールの行政検査において、濁度が基準を超えたため、全換水をして水質基準に適合した。その他の検査項目においては、すべて検査基準に適合している。 校舎の改修工事の関係で掃除の監督者を変更したことにより、年度途中でファイルを置く形式に変更した。修繕依頼は予算の関係で保留になっているものが多い。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒会活動	<p>①部活動の充実</p> <p>②生徒の力で作り上げる生徒会行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部顧問会議と部長会議を有効活用する 生徒会執行部を中心とした指導体制の確立 生徒の力で各種行事が運営できるように意識を高めていく 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の申し合わせ事項を、教員と部長で確認することができた。 執行部4人と各クラスの議員が連携し、様々な行事の企画・運営を中心に進めることができた。新型コロナウイルス感染防止策を中心に話し合いを進めることができた。 2号館工事に伴い、学校祭で使用する教室等に制限がある中ではあったが、運動常任委員、文化常任委員、広報常任委員の委員長、副委員長がそれぞれ指揮をとり、各種行事をスムーズに行うことができた。次年度も引き続き1号館工事が始まるため、運営方法を早急に検討していきたい。
学校図書館	<p>①図書館の利用機会、利用者数の増加</p> <p>②利用しやすい図書館作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業、LTでの図書館利用をよびかけ、広報活動、図書委員会の活動を充実させる 利用しやすいよう館内の環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や読書LTなどでの利用をよびかけて図書館利用の増加をはかるとともに、職員会議での教員への新着図書案内の配布を行い、教員向けにも情報提供を行った。図書委員会の活動については、ビブリオバトルの実施時期・方法の変更、イベントのCM配信や返却ポストの試行設置、新聞印刷工場の見学など、新しい取組みを企画させることができた。 例年通り、季節や学校行事、文豪の周年などのイベントに合わせて図書委員や教員が展示を組み替えて、様々な本が生徒の目に触れるようにつとめるとともに、効果的な展示を工夫した。 生徒や図書部教員だけでは購入図書の選定に偏りが生じやすく、広く情報収集をして、良書の収集を行う必要がある。 書籍の貸出しや展示など、図書館の軸となる部分を大切にしながら、図書館のなかに留まらないひらかれた図書館活動を行っていく必要がある。
SSH	<p>①探究力向上に向けたプログラム開発</p> <p>②SSHの成果の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究におけるPC(タブレット端末)の活用 課題研究の指導と各事業の繋がりを持たせたプログラムの開発 卒業生追跡調査の実施と分析 生徒の成果物の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年すべての課題研究において、論文及びポスターの作成、提出等の指導をグループウェア(Microsoft Teams)上で行った。 情報活用能力及び処理能力の向上に向けて、「情報」と課題研究の繋がりを検討していきたい。 卒業生追跡調査を実施できた。事業改善に向けた分析は来年度以降行う予定である。 今年度、SSH事業参加生徒の記録の集約を試みる事ができた。各事業が課題研究に与える影響について、事例研究が行えるようにデータの集約と分析方法を検討する必要がある。
ファッション創造科	<p>①各専門分野の専門的知識・技術の習得</p> <p>②創造力・表現力・判断力・実践力の育成</p> <p>③地域社会に貢献する人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ファッションや保育に関する専門的知識・技術の習得 豊かなライフスタイルを創造する能力や実践力等の育成 地域社会が求める資質や能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教材に取り組み、各種検定や資格取得を目指すことで知識・技術の向上を図った。来年度は被服1・2級の技術検定は年次送りで希望者のみで実施し、授業で取り組む教材をさらに充実させることとした。 授業で得た知識・技術を応用し、応募したコンテストで今年度もきもの作品コンテストでは4年連続文部科学大臣賞を受賞した。また、絵本コンテストでは、2年連続大賞に選出された。さらに、コンテストにチャレンジし、創造力・表現力等を高めたい。子どもの文化コースの園実習は判断力・実践力を養うのに非常に有益だった。 地元の企業・施設でのインターンシップを通して、現場での貴重な体験ができた。また、一宮市のSDGsパートナーとして環境負荷への意識を持たせ、今後の作品製作に取り組ませたい。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
1年	①基本的な生活習慣の確立による人間性の育成 ②主体的な学習方法の習得 ③将来を見据えた進路選択	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前の基本的な生活習慣を継続することで人間性を育成。 ・教えられるだけでなく学ぶことによる知識の習得 ・将来を見据えた文理選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣については、多数の生徒についてはしっかりとできていたが、一部の生徒については遅刻が多かった。個別に継続的な指導で対応していきたい。 ・各教科の担当者によって、きめ細やかな学習指導がなされ、数学科のハイレベル添削指導など高い進路目標達成に向けた上位層の早期指導を始めることができた。一方で、課題提出や家庭学習時間の面で、基本的な学習習慣が身につけていない生徒も散見されるため、次年度にかけて、更に指導を図ってきたい。 ・文理選択では、担任の面談などを通して、しっかりと相談することで将来を見据えた選択をすることができた。
2年	①自己管理能力の向上 ②高い進路目標と教養の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・社会的ルールやマナーの遵守 ・主体的な学習方法の確立 ・進路目標の探求、具体化 ・部活動や行事等への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、定期的な学年通信の発行などにより、学年団全体が同じ目線で指導することができた。一方で、遅刻欠席数の増加に表れているように、生徒の基本的な生活習慣には課題が残っている。引き続き、学年集会や面談等で意識付けを心がけていきたい。 ・各教科の担当者によって、きめ細やかな学習指導がなされ、国語科・数学科のハイレベル添削指導など高い進路目標達成に向けた上位層の早期指導を始めることができた。平日・休日の平均学習時間も徐々に増加する一方、意識を高く持ち取り組み始めている生徒とそうではない生徒の2極化傾向がみられる。引き続き学年全体の底上げを図ってきたい。 ・担任の面談指導や学年集会での学年団の先生方の講話を通して、生徒たちが早期に進路希望を明確にする必要性を認識するきっかけを作ることができた。3年次に向け、引き続き高い目標設定とこれを貫く指導、声かけを心がけていきたい。
3年	①挑戦する心の育成、仲間との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・学力、思考力、表現力の向上 ・高い進路目標とキャリアの設定 ・教養と社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上のために努力する姿勢がみられた一方で、自身の主観と狭い見方で科目・内容ごとの軽重を短絡的に決めつける風潮があり、今後下級生に拡大しないか大変危惧される。 ・自らの可能性を高めるための目標を立て、努力する姿がみられた。高校卒業後のキャリアの設定が十分にできていない生徒もいるが、キャリア設定のための十分な基礎知識を持っていないことに起因しており、一般教養を身につける環境を整える必要がある。 ・学習能力の向上について強い関心はあるが、定期考査や大学入試など目先のことにとられるあまり、社会性や一般教養を軽視する傾向が年々強くなっているように感じられる。
総合評価			<p>本年度は、これまでの指導体制を大きく改め、新たな取組に着手する一年となった。</p> <p>まず第一に、タブレット等のICT機器の活用である。日々の授業を含めた学習活動やSSHにおける探究活動での活用、その他様々な場面でのアンケートの集約等で利用が進み、多様な試みや工夫が行われ、教員の作業の効率化にもつなかった。</p> <p>次に第1学年からの新教育課程の実施に伴って、観点別評価を本格的に導入した。まだまだ実践上の課題は多くあるが、考査による評価に偏っていた従来のあり方を見直し、生徒の主体的・協働的な学びの姿勢や生徒一人一人の成長に目を向ける指導が展開できた。特に協働的な学びは、生徒会活動やファッション創造科に好影響を与えている。</p> <p>またHPのリニューアル(総務)、新たな生徒参加型行事の企画(学校図書館)、第V期申請に向けた探究活動の一層の充実(SSH)等も挙げられる。来年度は、こうした取組を更に推進し、その充実に努めていきたい。</p>

